

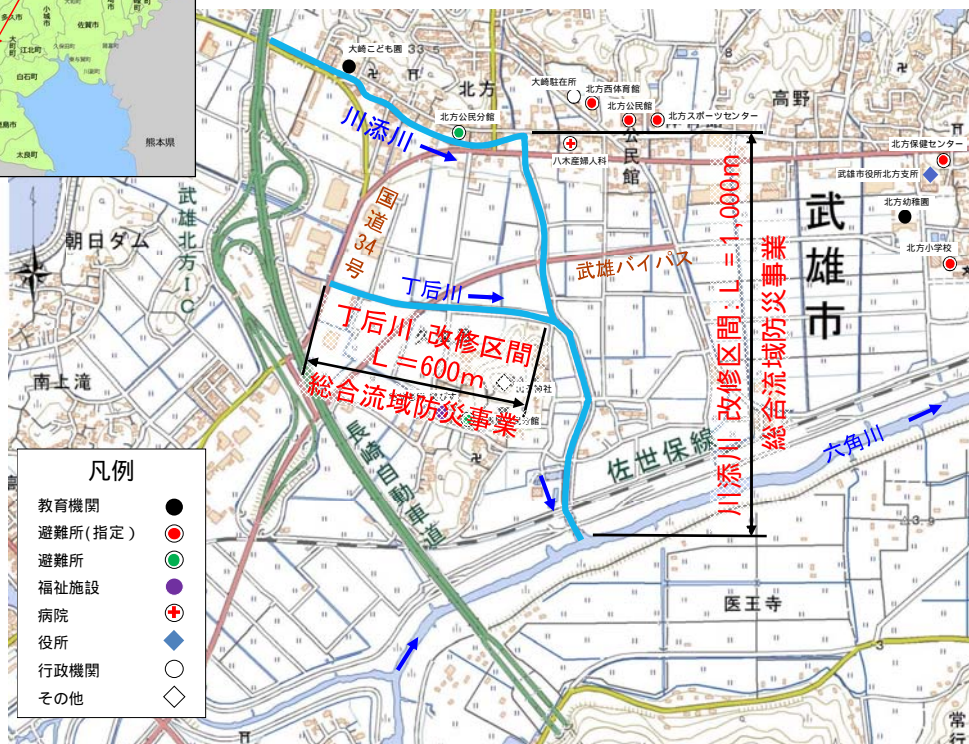
# 六角川水系川添川 河川整備交付金事業 (総合流域防災事業)

## 武雄市

(再評価実施後5年が経過)



### 位置図



## 事業目的

流下能力不足による浸水被害が発生

平成2年7月洪水

浸水戸数 593戸

浸水面積 110ha



### ○浸水被害の軽減を図る

・流路是正、狭窄部解消を実施

・治水安全度の向上を図る

計画流量  $100\text{m}^3/\text{s}$

計画治水安全度 1/50

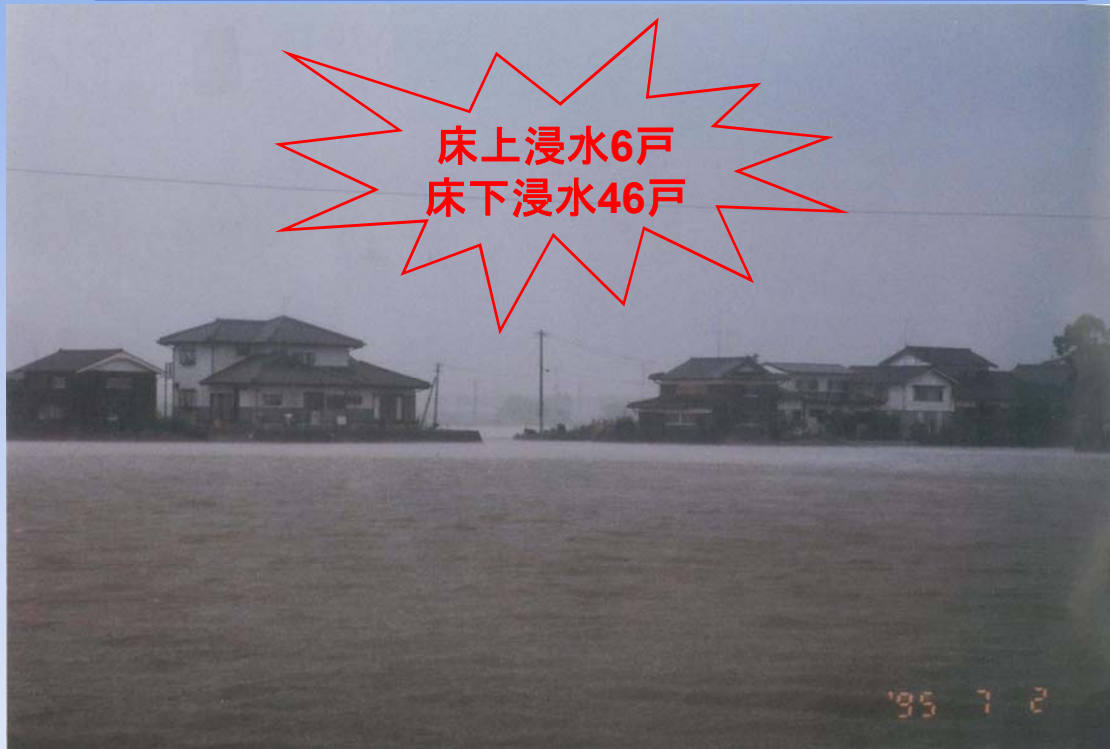
3

平成2年7月 梅雨前線豪雨 川添川

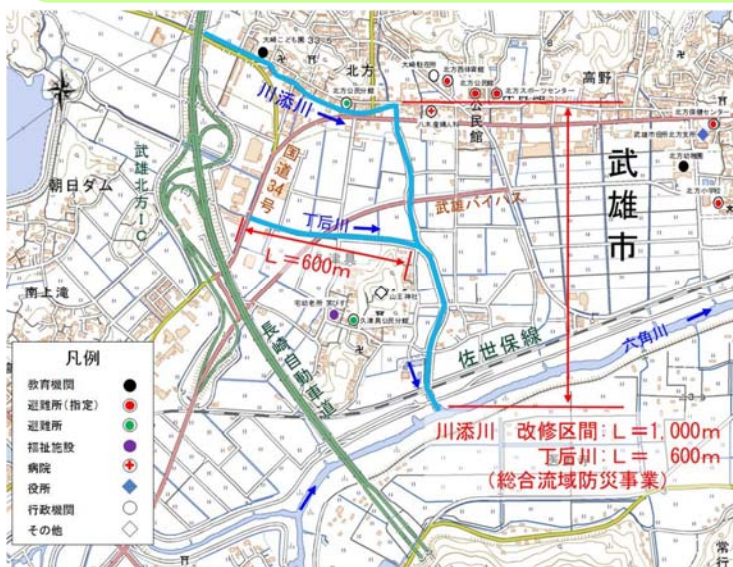
連続雨量716mm 最大日雨量453mm 時間最大雨量75mm



平成7年7月 梅雨前線豪雨 川添川



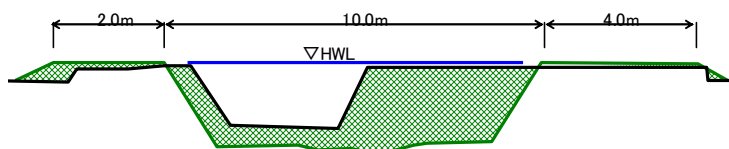
川添川総合流域防災事業 着手年:昭和54年度  
事業地:武雄市



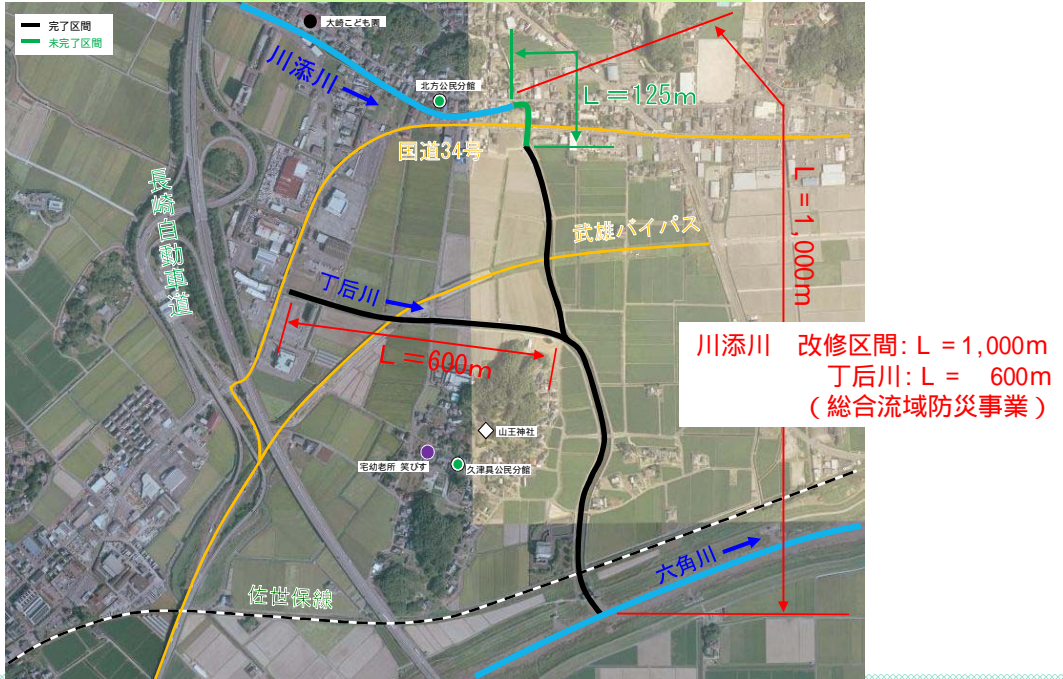
○事業概要

- ・全体事業費  
2,230百万円
- ・事業期間  
S54~H36
- ・改修延長  
1,600m
- ・計画流量  
100m<sup>3</sup>/s
- ・計画治水安全度  
1/50
- ・掘削・護岸、橋梁7橋  
堰3基、樋管8基
- ・費用対効果  
1.2

標準横断面



# 事業進捗状況



## ○事業進捗状況

- ・国道34号より下流については、改修が完了している。
- ・H29年度末進捗率 87%(事業費ベース)
- ・年平均進捗率 2.2%

# 完了区間状況(下流部)



## 未完了区間状況（上流部）



## 多自然川づくりの状況

現況のブロック積護岸の河道に対して、寄せ石工を施工することで、水際の植生が活着し空間の連続性が創出されている。



## 事業を巡る社会情勢等の変化

○周辺に国道34号武雄バイパス(国事業)が開通した。

11

## 費用対効果の要因の変化

費用対効果の値はほぼ同じ

総費用額C: 治水施設の整備及び維持管理に要する費用  
(建設費、維持管理費(※事業完了後50年間))

総便益額B: 治水施設整備によってもたらされる総便益額(被害軽減額)

・一般資産被害(家屋、事業所等)	3,206百万円
・農作物被害(水稻、畑作物等)	464百万円
・公共土木施設等災害被害(道路、橋梁等)	5,411百万円
・間接被害(事業所の営業停止被害、清掃費用等)	441百万円
・残存価値	11百万円

総費用C: 7,838百万円

総便益B: 9,533百万円

⇒費用対効果

$$B/C=9,533/7,838=1.2$$

12

## コスト縮減や代替案等の可能性

- コスト縮減
  - ・再生材の積極的利用
  - ・建設副産物の有効利用
- 代替案の検討  
特になし

13

## 対応方針(事業課案)

### 河川改修の効果

- ①治水安全度の向上
- ②平成2年7月洪水による  
浸水被害 593戸  
浸水面積 110ha の軽減
- ③地域住民の安全・安心な暮らしに寄与

### 今後の事業展開

- ・事業を継続し、早期完成を図りたい

14